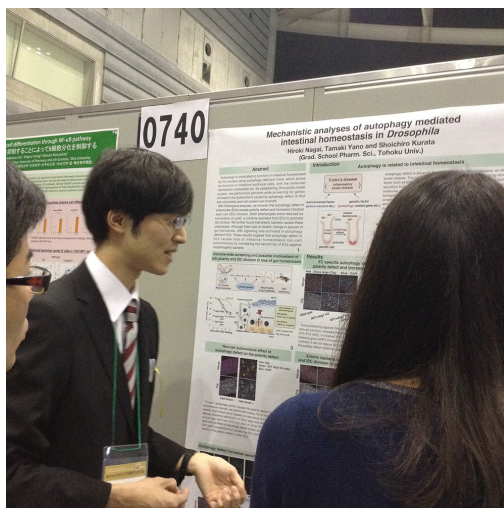


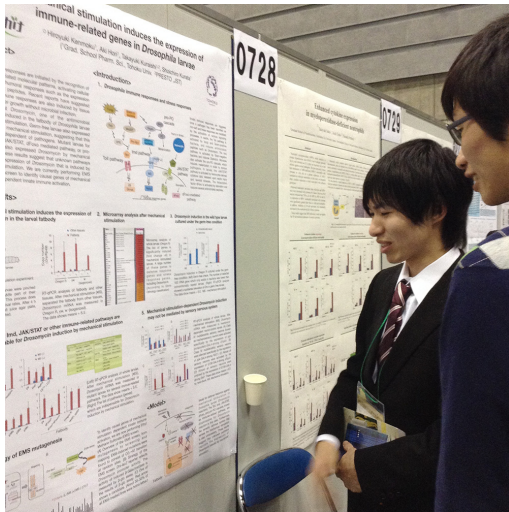
11月25日から11月27日にわたってパシフィコ横浜にて開催された第37回分子生物学会に参加し、「オートファジーによる腸管恒常性維持メカニズムの解析」という題でポスター発表をさせていただきました。ポスター発表は去年も経験していたため、慣れて悠々と発表できるかと思いきや、「この説明で自分の研究の面白さが伝わるだろうか」と、むしろ前回よりも緊張しながらの発表となりました。プレゼンを的確に分かりやすく行うという姿勢がこの1年間でより深く身に付いた結果の緊張だったのではないかと思います（とポジティブに考えることにしました）。緊張しつつもディスカッションの中で研究の助けとなるアドバイスや激励の言葉を頂くことができ、今後の励みとなりました。

シンポジウムやワークショップでは腸内細菌と宿主の相互作用に関する発表を中心に最新の知見に触れることができました。私が研究しているオートファジーについても疾患との関連についていくつか発表がなされており、自分も負けていけない！と良い刺激を得ることができたように思います。夜には中華街など、横浜の夜景や食事を楽しむことができたのもいい思い出になりました。

今回このような貴重な機会を頂けたことに感謝申し上げます。ありがとうございました。



私は2014年11月25日（火）～27日（木）にパシフィコ横浜で開催された第37回日本分子生物学会に参加させていただきました。前回大会に引き続き本大会でもポスター発表を行い、多くの方々と議論を交わすことができました。ショウジョウバエを使っている先生や、同分野の研究なさっている先生、ディスカッサーの先生方には鋭いご指摘や suggestion 等を頂き、問題点や今後の研究の方向性、意義について改めて考えるきつ



かけになりました。一方で、異なる分野の先生方との議論では、自分の研究の内容や面白さを簡潔に伝える難しさを感じ、自信の糧になる良い経験になったと思います。また昨年学会でお会いした方々と議論する機会があり、人脈を広げることができました。

シンポジウムやワークショップでは、現在の自分の研究分野の参考になるようなテーマは少なかったものの、大変興味深い発表が数多くありました。特に個体の恒常性維持における臓器関連や神経/免疫のクロストークについての発表は、生命現象を個体レベルで考えることの重要性や困難さを痛感しました。

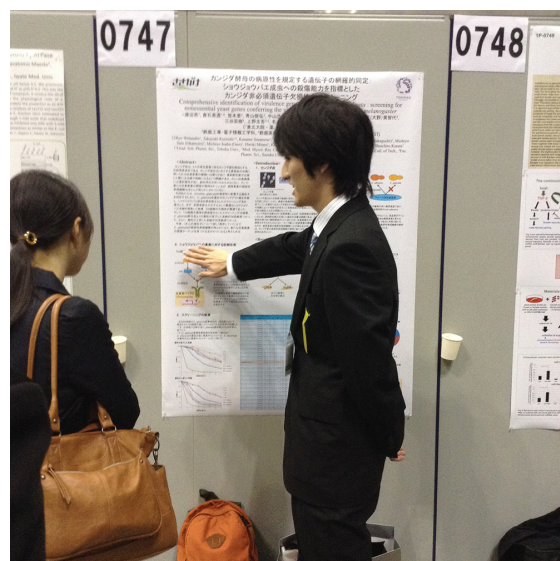
学会期間中はあいにくの空模様でしたが、OBの先輩との交流や横浜中華街の観光もでき、有意義な時間を過ごすことができました。このような機会を与えて下さったことに深く感謝いたします。

第37回日本分子生物学会レポート

M1 渡辺 亮

2014年11月25日～27日に行われた第37回日本分子生物学会年会に参加し、ポスター発表をさせていただきました。私は今回が初めての学会への参加であり、緊張と期待の入り交じった気持ちで横浜へと向かいました。

自分のポスター発表では、手短かに、しかし要点はしっかり抑えて説明することの難しさを実感しました。プレゼンテーション能力の向上も今後の大きな課題です。しかし短い時間でしたが、たくさん



の方々と話をすることができ、いろいろな意見も頂いて、有意義で楽しい時間を過ごさせていただきました。今回頂いた意見も踏まえて、より良いものとなるように今後の研

究を進めていきたいと思ひます。

シンポジウムやワークショップではハダカデバネズミをモデル生物として老化の研究を行っている方など、普段の私の研究生活ではなかなか縁のないような研究をされている方々の発表を聞くことができました。様々な生命現象や研究手法について知ることができ、視野が広がりました。

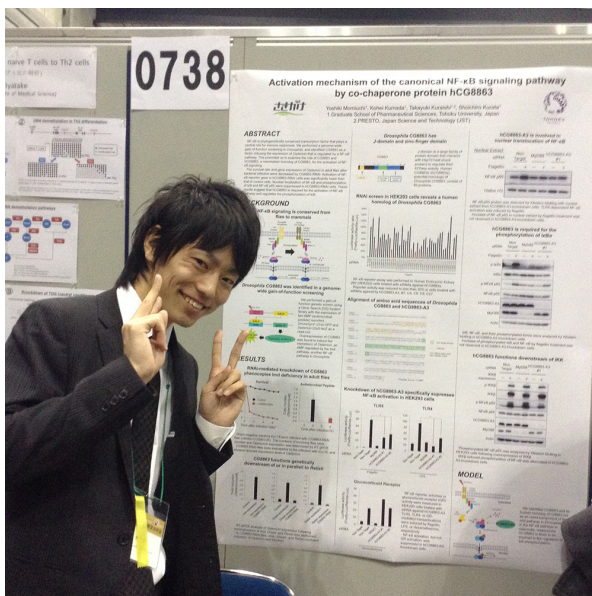
学会へ参加したことで非常に多くの研究発表を見ることができ、知見を広げることができました。今後、今回得た知識を活用して、いろいろな視点から自分の研究テーマについて考えていけたらと思ひます。この度はこのような貴重な機会を与えていただきありがとうございます。

第 37 回 日本分子生物学会 参加レポート

M1 初内義希

この度、2014年11月25日から27日にかけてパシフィコ横浜で開催されました、第37回日本分子生物学会に参加させて頂きましたので、学会報告をさせていただきます。

私は今回の学会で「Activation mechanism of the canonical NF- κ B signaling pathway by co-shaperone protein hCG8863」という題目でポスター発表をさせていただきました。去年も同学会でポスター発表をさせていただいたのですが、このような大きな学会に慣れるということは全くなく、非常に緊張しながら発表に臨みました。発表中は多くの先生から激励の言葉やご意見をいただき、今後の研究方針を考えるうえで有意義な時間を過ごす事が出来ました。特に群馬大学の先生から頂いた意見は、自分も大きな課題であると感じていた部分を解消



できる可能性がある貴重なもので、すぐにでも試してみたいと考えております。また偶然にも、今回の発表の最後には英語で自分の研究を紹介する機会がありました。私は日頃から英語に対する苦手意識が非常に強いのですが、やはり議論の中で伝えたい事柄の英語表現が全く浮かばず、とても悔しい思いをしました。英語は今後どこに行っても必要な能力であるので、この思いを忘れることなく、

今後の課題として取り組むと共に、逃げずに立ち向かった「発表度胸」も大切にしていきたいと思います。

シンポジウムやワークショップでは様々な分野の最先端の研究に触れることが出来ました。特にユビキチン化などタンパク質の翻訳後修飾による活性制御についての研究は自分の研究テーマである NF- κ B シグナリングともダイレクトに関連する内容で、非常に参考になり、見聞を広げることが出来ました。また、学会後は横浜中華街での食事や研究室の OB の先輩と交流する機会もあり、とてもいい思い出になりました。

最後になりましたが、今回はこのような貴重な機会を与えていただきまして、ありがとうございました。